





けい かきうけい けい
各 方 益 活 味 活 勤 學
た ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
さ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
書 籍 小 多 一 一 是 能 之 活 互 小
道 儀 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
あ っ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

象を渡ふの事をし抑りしは是
まゝとてち敷に順序たらし
さば由て諸君に生方を示す
ごとく何年洲家實地の文を著し
玉へと切ふ効めをいさし某
まゝといふ籍の餘味を求め力めて
草紙起し書をなすに随分
是れめで心配をいさしはな
今又

以りくの書類を見合せ
日本全國の地理概略を記し
日本を東と表題して各方の
漢字ひたさるべき一種の文
とて板木部へ中出板を
りり各方を示すに
漢字ひたさるべきに
地理を漢語への
福澤氏が

世界を必要とするは字をびたうする事
我を後として彼を以てしる事
誤えなく全世界の地理概略
まづ是を以てしる事
要するは分別之ある事
也

瓜生の實より

子供
各々

瓜生 改正日本國畫卷一

總論

凡そ此地面は上も下も
物の中も勝りて聖き
人も過らざる能く
其縁もたつたる地

瓜生氏

面形よふあまの地の
面の事を知らざるの最
恥の事と我の夫也
地球形や圓くして恰ど
橙の實乃ごとく之は圓
地球を名をて地球と



瓜生氏 日本国書 卷一

西の半世界の界

東の半世界の界





申すはなり其橙の實の形
底と頭小窪ありそ總面
小高低あり之を地球小
譬へたが窪を南極北極
とて北と南の端なり其
總面の高低ありき所

瓜生氏 日本國書

卷一

二二

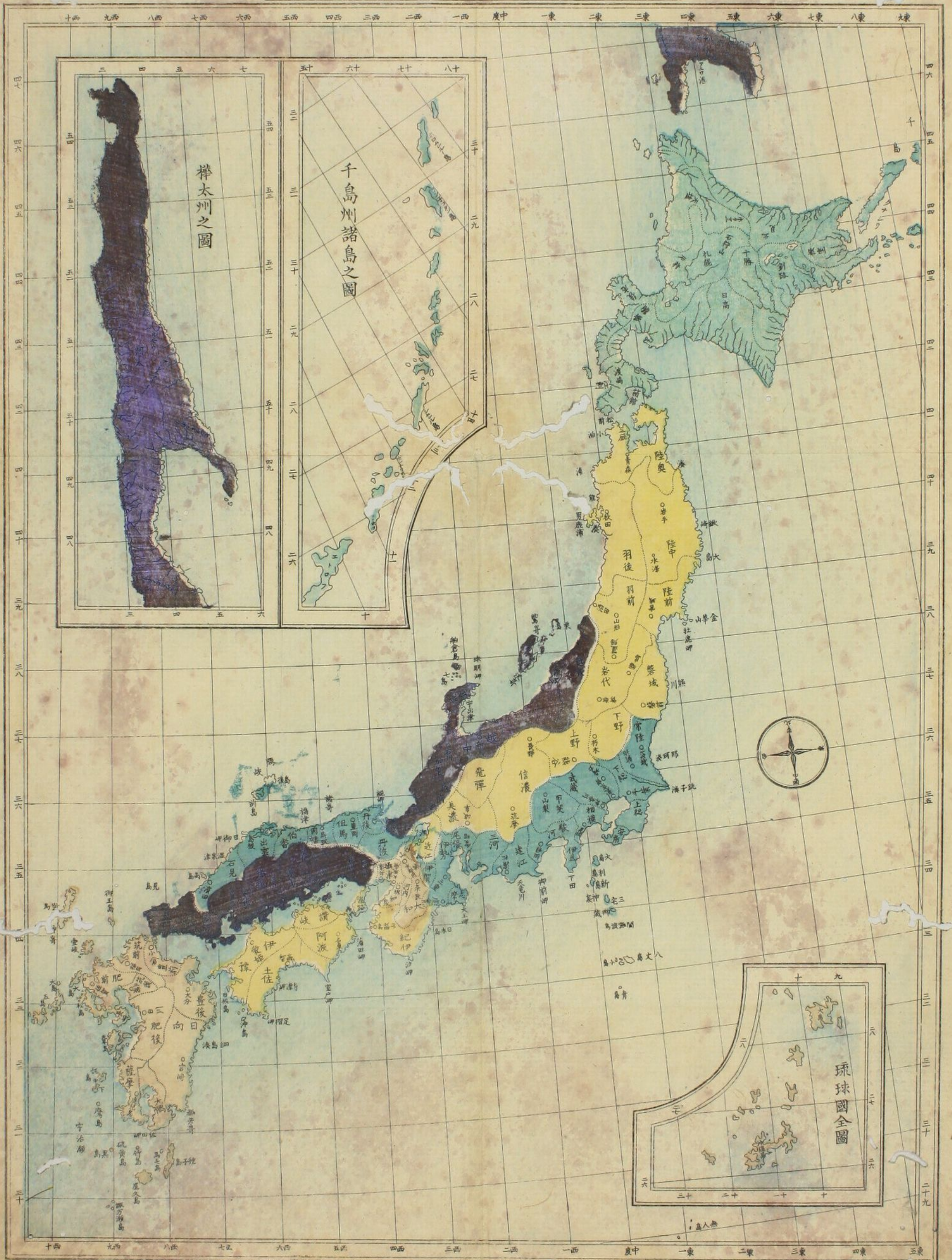
山と陸はまゝ海と河乃
水陸も水より少くして大
凡水乃三分一内は國數
抑ほく林乃如く小立ち
並ふ此由と一集し於
を五つり區別し之を

亞細亞亞弗利加歐羅巴
南北亞墨利加大洋洲名
事て五大洲といふ事一
を知らん亦そ出ん生息
たり本國乃我日能本よ
る習ふべし

世界を廣く萬國を多
く中より輝き其名を
得たる日如本を亞細亞
乃中北東隅右平海乃西
北も獨り立たる一帝は
四方海を圍み西を

朝鮮滿州と日本海をお
隔て北を魯西亞とお接
し國內一併山嶺を以て亞
墨利加洲を脈を引き
中も火山も多し土
地は象もくの字に幅狭

大日本全圖



とて堅長く一里四方を
敷ふと其坪二萬三千
と二百八十六余と其
人口は凡そ二千二百
八十萬氣候溫和味
肥え五穀財産豊とす

人乃才智と他小優と學
校の數年小増と開化
日進と行きて陸地を
繞道傳信機水と蒸氣
帆前船東洋一乃國を
さして其乃路程と大八

嶋又豊葦原水種玉
とし言つ

神武天皇以來ち長く大
和ふ都せるも因りて國をこや

マト「や」又「ヒ」モト「も」唱
つゝるも倭は又ち日本の

文字を用ひて音讀を古
來六十八ありて五畿七
道と二嶋とふ分てゐる所
ありしを去る成原の
冬奥羽と蝦夷を改革し
八十四ありて五畿八道と新ふ

改元定よりまじ泰和
今上帝。睦仁天皇鳳葉
を武蔵の江戸小駈め玉ひ
井を東東と改めて花小
皇居をとりめ玉ふ字四
機の改への昔ふ立漢

藩治の旧弊跡いんて全
國三府と六十の縣を置
きし其下流球國と藩
とを都鄙遠近の差別
なく王化を仰ぐ奴陽
ふく其小類なき河世

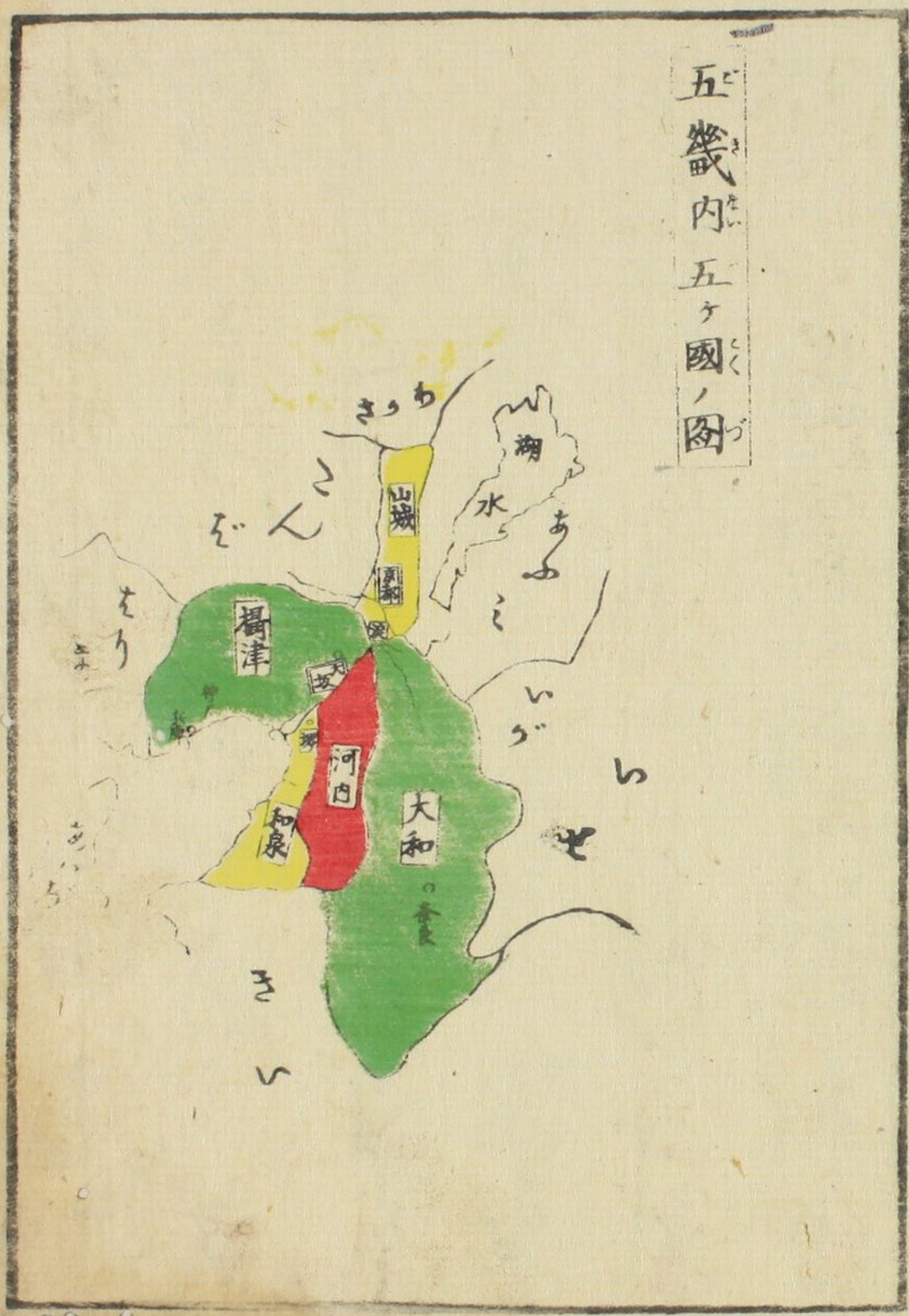
瓜生氏
日本書紀
卷一

あつとやゆ

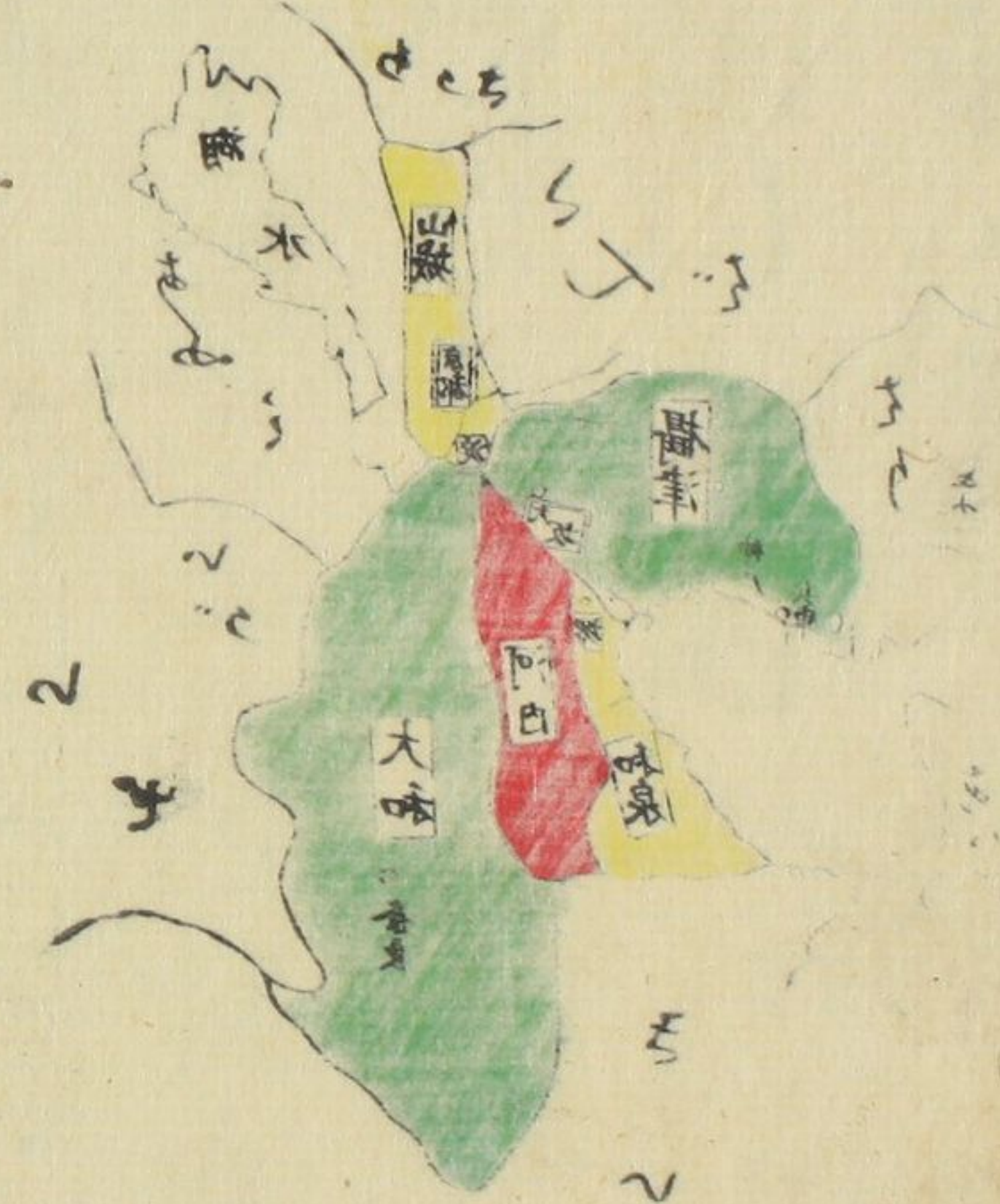
畿内五國

山城乃京を繞り西を
海餘の三方も陸地なり
一小山城名はこしく三子
山と取圍と南は大和伊

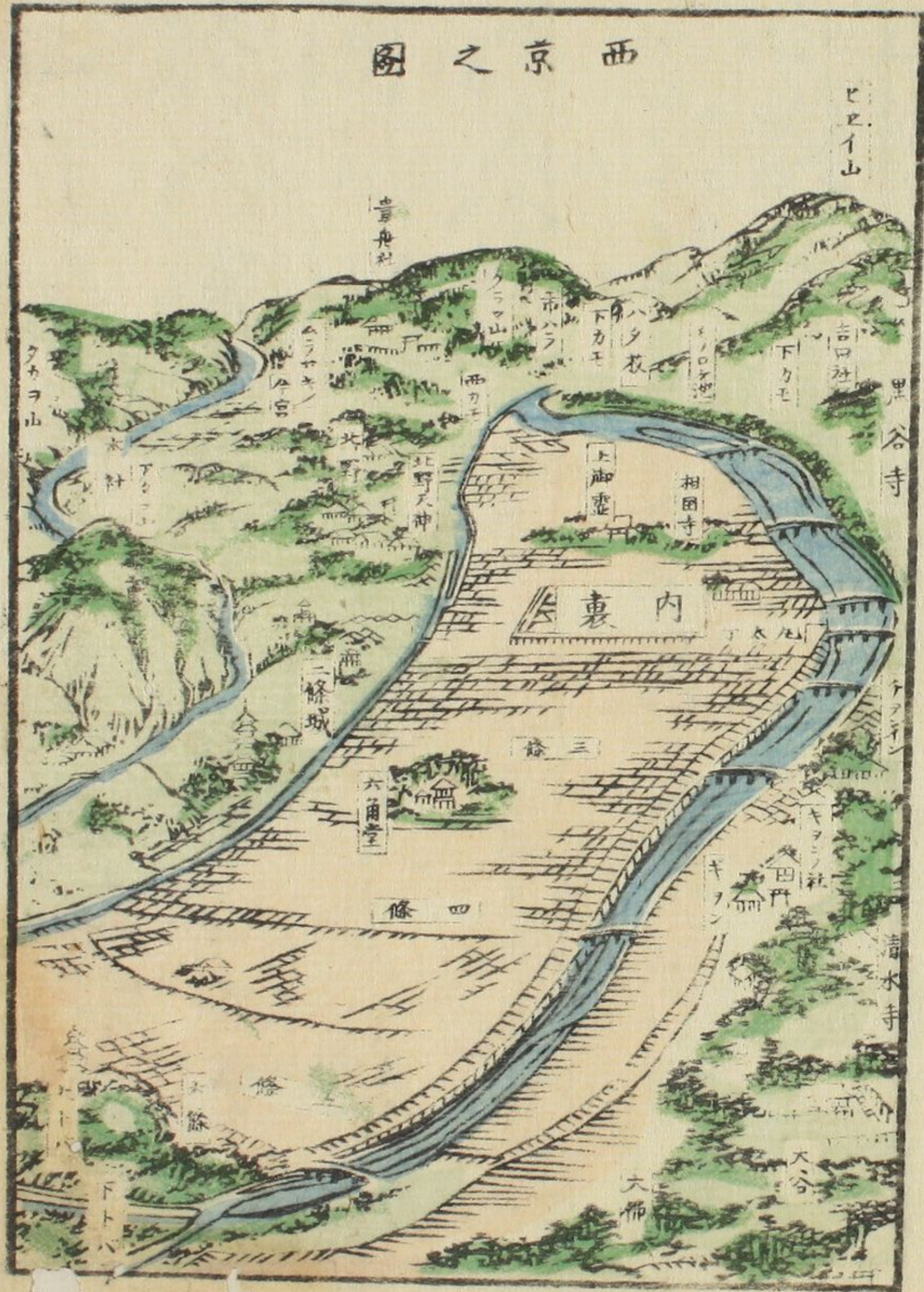
五畿内五ヶ國ノ圖



近畿河内國圖

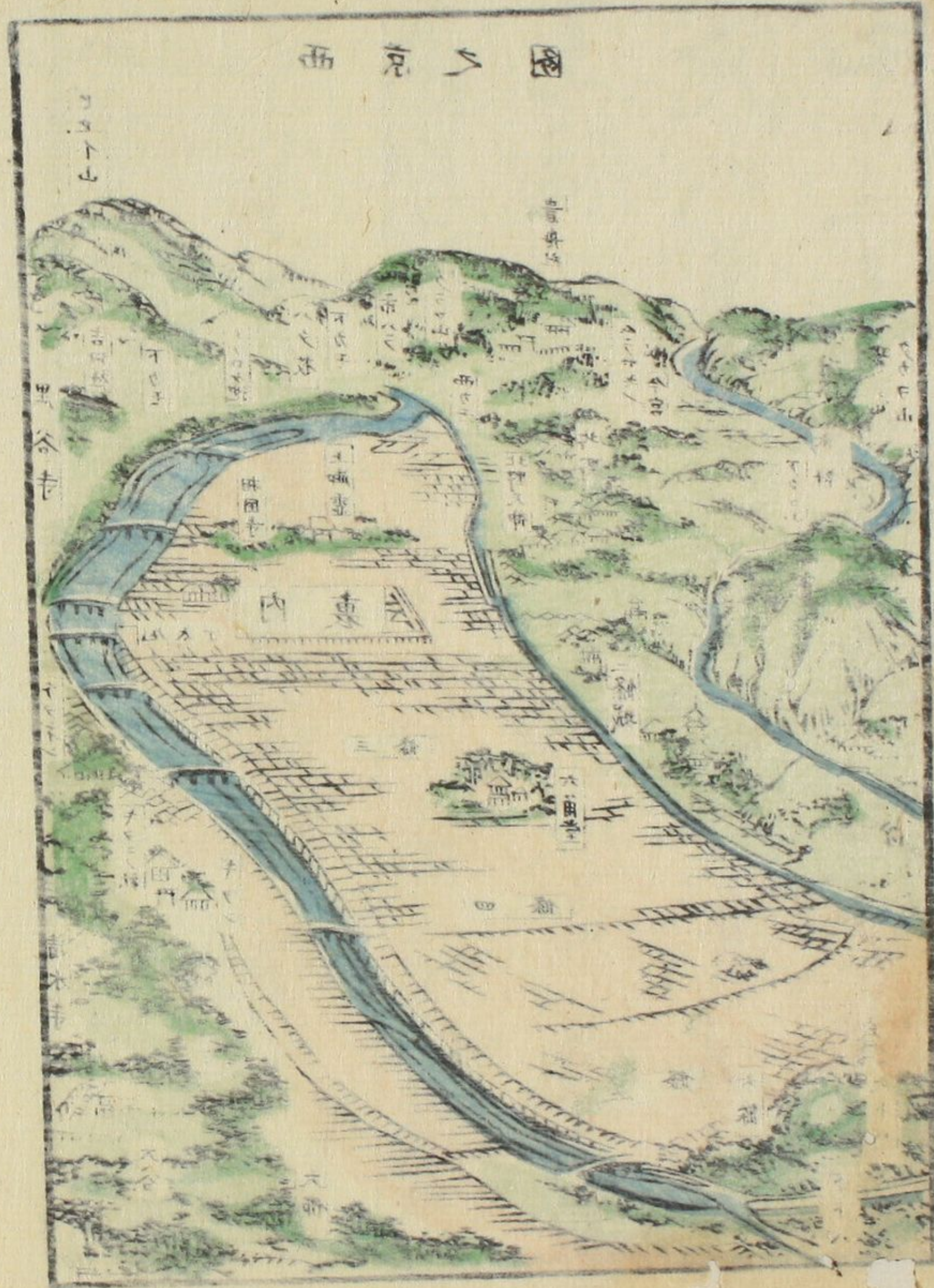


賀乃國西北河内攝津よ
 丹波ふかやち地を接
 東ち總て近江乃國東
 小四み西小張の櫛の象れ
 國形よて海方一國乃其
 一ツ南を低く水田少なり



日本圖書 卷一

中^{ちゆう}小^{せう}平^{へい}地^ち乃^ち西^{さい}京^{きやう}之^の昔^{むかし}植^{くわ}
 武^ぶ乃^の帝^{てい}より。以^{もつ}來^{らい}續^つきし
 王^{わう}都^と由^{よし}之^の今^{いま}尚^{なほ}之^のを^を京^{きやう}都^と
 府^ふと申^{まを}しし。府^ふ廳^{てい}を^を置^おき
 之^の大^{だい}道^{だう}其^{その}盤^{ばん}の^の目^め如^{ごと}こ
 とく九^く條^{じょう}分^{ぶん}ち^ちを^を分^{ぶん}乃^の



小路支道みしりてあり人
 口三十七萬餘是乃府内
 能人數しりて尤も山城一
 圓を四十六萬九千餘四
 時に寒暑を自ら常小
 正しく行はし其風俗に

日本國書
都びして。詞遣ひん。柔なるを
茲小名高き山とて。東乃
方より蒲團者て。寐たは
姿や東山。近江界の比。獻
乃山西よと。愛宕之と。雄心
櫻の名所。嵐山北の鞍馬

小貴船山。續く林鹿の川。
の水と。清き鴨川は。道
江乃國に湖の水は。下流
を宇治川也。丹波より來
る大堰川。伊賀大和より
來津川。乃諸流。聚り淀よ

ハ了綾也錦小絹布類
川晒友仙染白川石也磁
石類漆水陶器宇治乃
茶是之此地の産物也
京都府廳の管轄を山
城一圓ハ郡ナリ丹波乃内

乃三郡也
二小大和也過半山東也
伊勢小西河内南也紀伊
小張出也北也山城伊賀
の國海方也國北北の二
つ二千五百三十年餘

瓜生氏 日本國書 卷一 十二

過一それ昔

神武天皇平定以來田
世於建都の古地たるは
山陵今小敷地ありそ
由奈る良といふ土地を山
小色まゝる平地ありそ
和銅

三年より起ると天應延暦
乃頃より七十餘年の
間皇居のありし都ゆゑ
今も南都と名を稱へ
大和一國十五郡地を管
轄する玉ふ奈る良縣廳

之於小ある。當る國中
人口多し。二十四萬七百人
國は廣さうも西東十四里
半。小南より北小五里
三十里。四時乃氣候。山
城より。安ら者。とくも小温

和あり。此國東南山深く
峯をさす。ぬる。芳野山。梅
乃名所。海内一南朝諸帝
の行在所。西小を葛城。皇
別山。北小を初瀬。春日山
川を東に界より。國の真

中を貫き流る水は
芳野川河内小落る大和
川伊賀の界は月が瀬を
近頃梅をよ名を濁るを
國産葛の粉奈良良晒芳
野漆小油梅屋

三小河内いやす山國海
方一國能持の三つ東を
大和南紀伊西和泉と
攝津と小界を接し北
乃方角を張り出し山城
と攝津の間小狭まる

瓜生氏
日本國書
卷一

界を山に圍めし中
平たき勝地方なり西に流
川流を東に攝津を界
を分ちたる河を以て
平らにして池沼水田以て
多く其流川の流を以て

畫を蒸氣を根を根舟
往來の舟は絶つるなく京
より攝津の大坂へ通ふ
旅人此水に便り求むぬ
者ぞ方々國に真中なる
大和川流を通りて諸乃

瓜生代 卷一 十五

小川落込み西乃方接津
の海へ流せ行く。其稍南
狭山とて農圃小灌ぐ大
池あり昔山宗神帝の時
此地小水如之きを憂ひ
玉ふて堰くとて也。本朝

池乃始あり其の山とて
西南に隅み小崎の九重
と蔵王峠峯高く東南
千早小金剛山正成公の
古城跡北より篠峯二上
嶽高安山の諸山あり。國

氏生氏
十八國
卷五

十二

中合をて十六郡をて
廿一萬と四千九百の人
口より東五里小南小
より十里小南四里より也
上下男女を押し去る事
凡ゆる事漬桑らのふ氣

ゆる暖事多しとを其
産物を道明寺飯河内木
綿小金剛砂
才四和泉を北攝津東の
方より南まで山を並び
列して河内と紀伊小弓

形小界を接し西の方一
帯海小打ち臨むは必平
原又多く平原北小極
し堤といつる湊ありて橋
河泉は堤より踏み東小
三必の境目ありて明ら

この小東も河内北も攝南
も乃ち和泉ありては所小
を堤縣を縣廳を立て
置て河泉二必を全轄を
堤乃南石津川大津川は
南は方海をもちたるなり

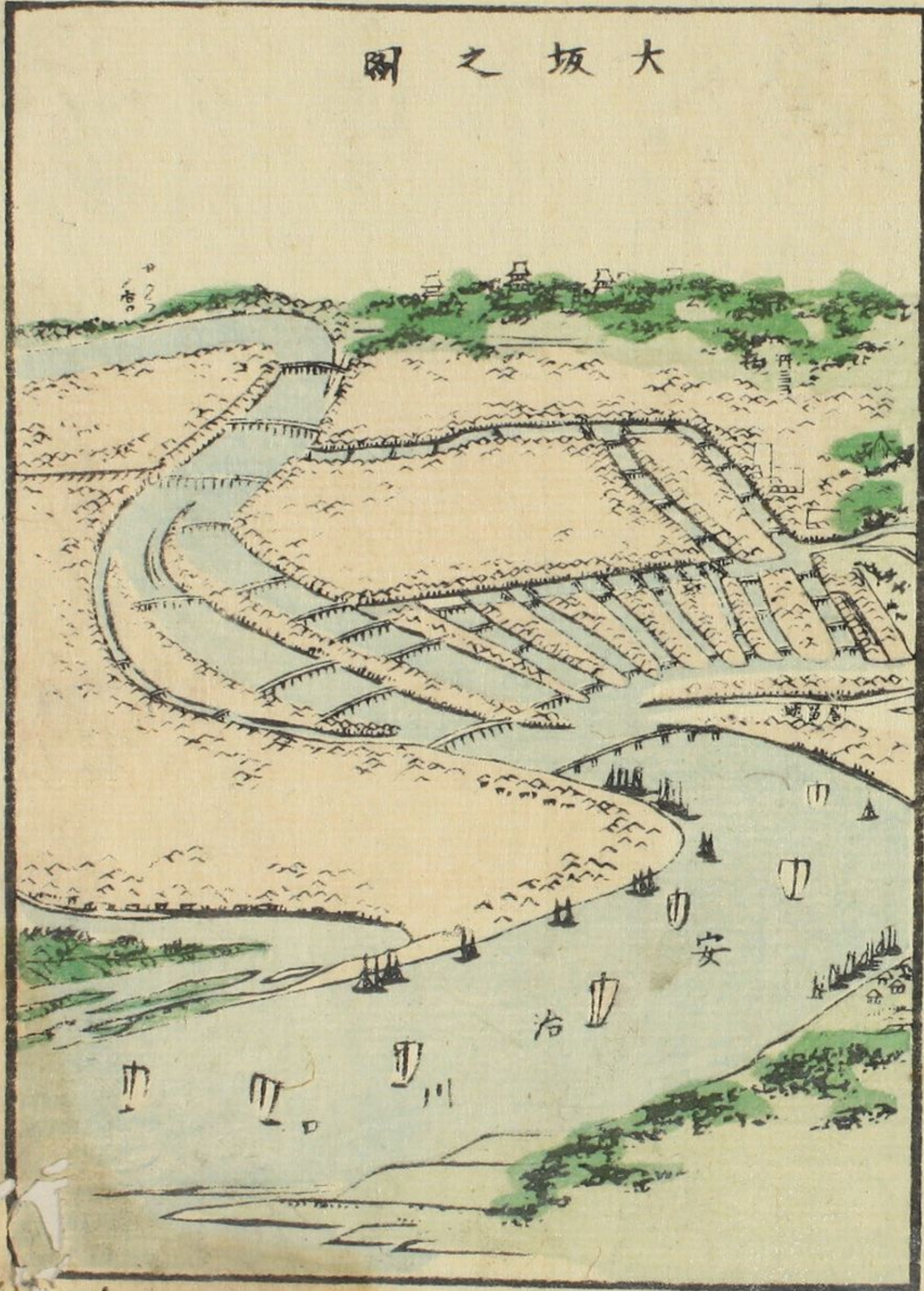
瓜生氏 日本國書 卷一 十八

岸、和國國比半の所、
一國四郡人口を大凡二
十萬とす。也國乃東西五
里計、南と北と十二里餘
に穿候。河内ふ美らむ其
産物を酒と、綯子物紙類

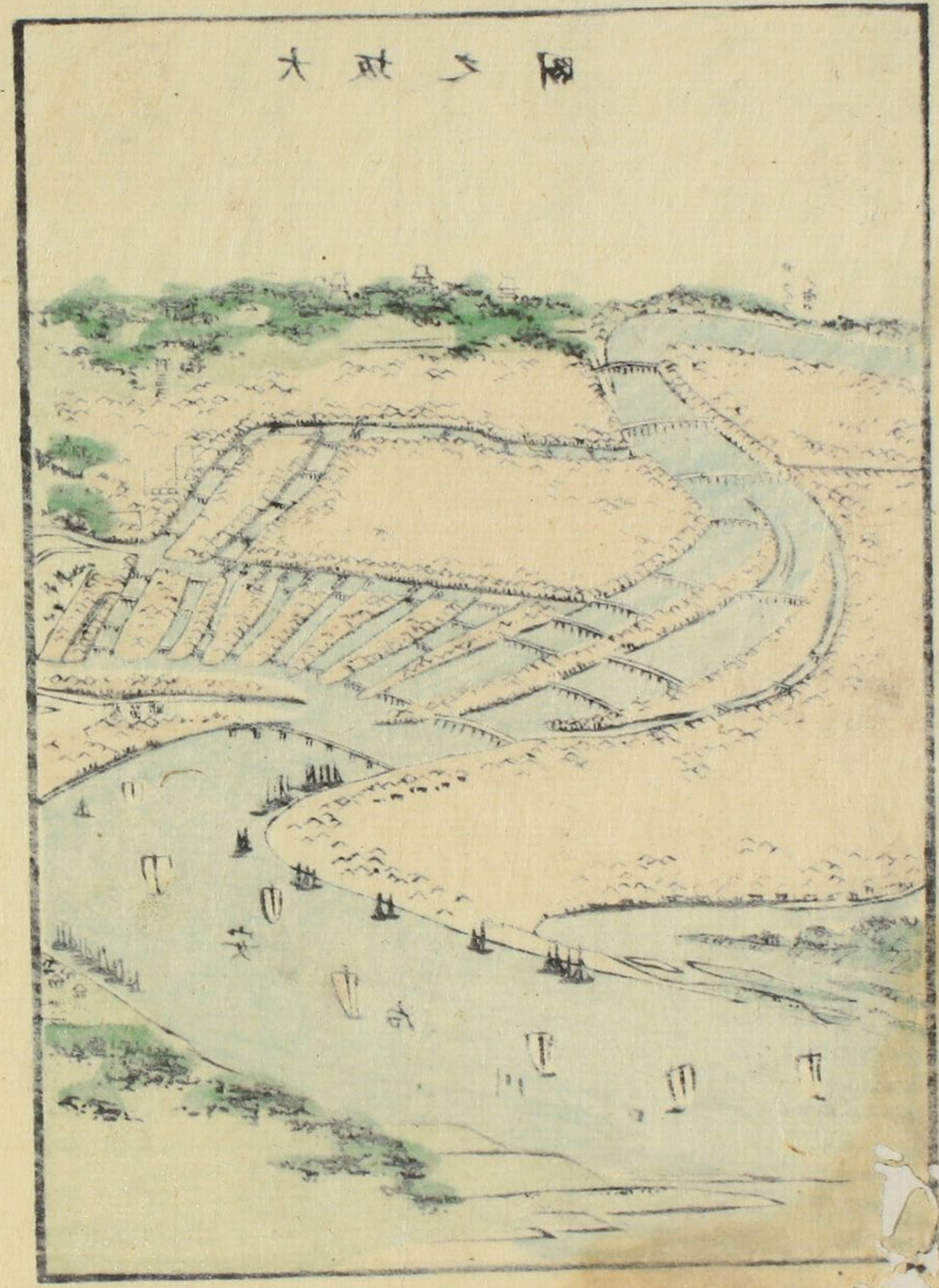
木綿類

第五攝津と北丹波東北
山城ふ交りて、東と河内
南の方和泉ふ隣りて、攝
津、石部、あゝの水、土會流し
西、南海を抱き、込み、南

大坂之圖



狭く北東へ。形長靴。秀
 多らば。一國都。十二郡
 古来の唱。能波の津。実
 守内。新咽喉。出船。八
 船。絶。有。方。く。輻。輳。之。類
 の。大。港。靴。形。踏。い。大。坂。府



東西二京より立並び合を
 三箇に都と稱し城
 高くして池深く留るの
 高の敷しきば民の寔
 之にまけく通高次
 小國より居留の吳人

出せ氏 日本書紀 卷一

稍多く造幣寮を金銀
の園を貨幣を鑄造し
又鎮臺を数千に陸軍兵
歳を拜し不逞を拜め
氏は護まると又府庭の
管轄も當國内の七郡

少く残り五郡を西の方
十里隔つる兵庫と
其縣廳の管轄あり兵
庫の町に續きたる神
戸といふ一港に近來又
易於集の地居のゆへ

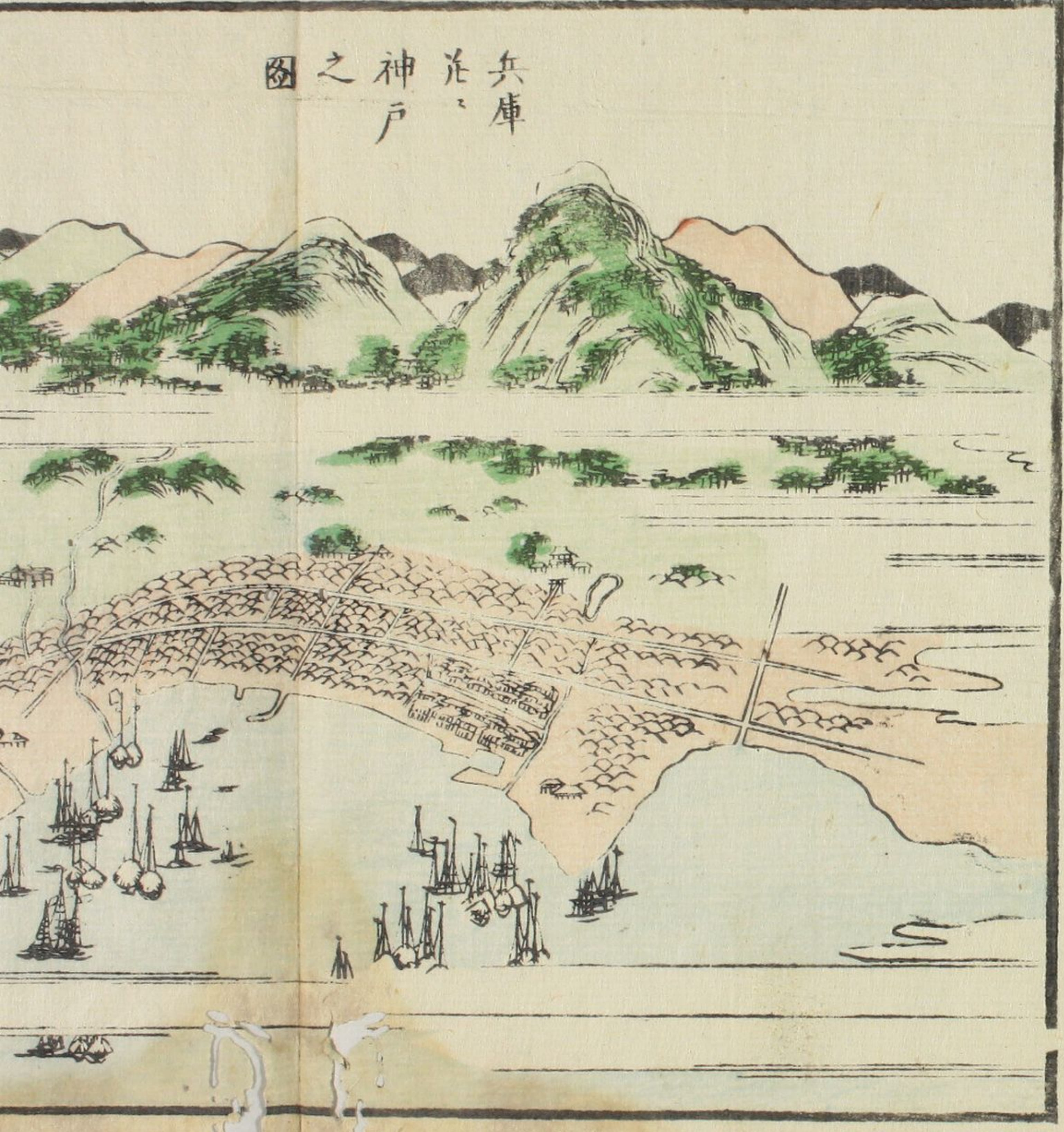
瓜生氏 二二

縣ちひさか極まめて都みやこ昌あき
 北きたに縣あき廳ちやうんたのり
 あり殊ことふやゆふと大坂乃
 間の鉄道建築けんちくのちやのり
 沿え成なり道みちと北きたに一いち里りの
 人口じんこうを七十八しちじゅうはちあり九く子こ餘よ

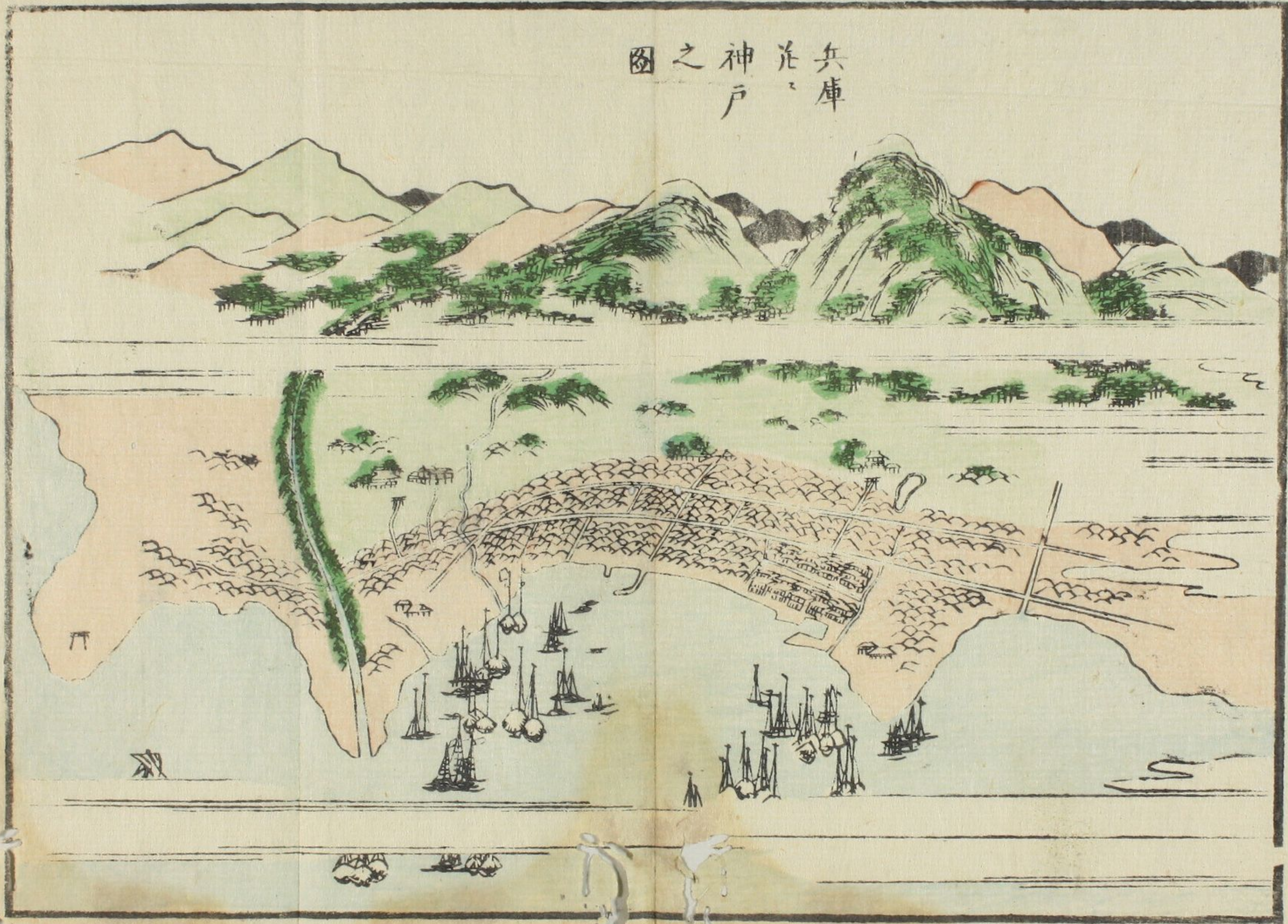


野々々町々極めて繁昌
 北に縣廳ちやうんたうり
 あり殊小多ふと大坂乃
 間の鉄道建築てつどうしやうり
 落成道々らくせいとと北きた一いち玉たまの
 人口じんこうをを七しち十じゅう八はち万まん九く千せん餘よ

兵庫港之神戸之圖

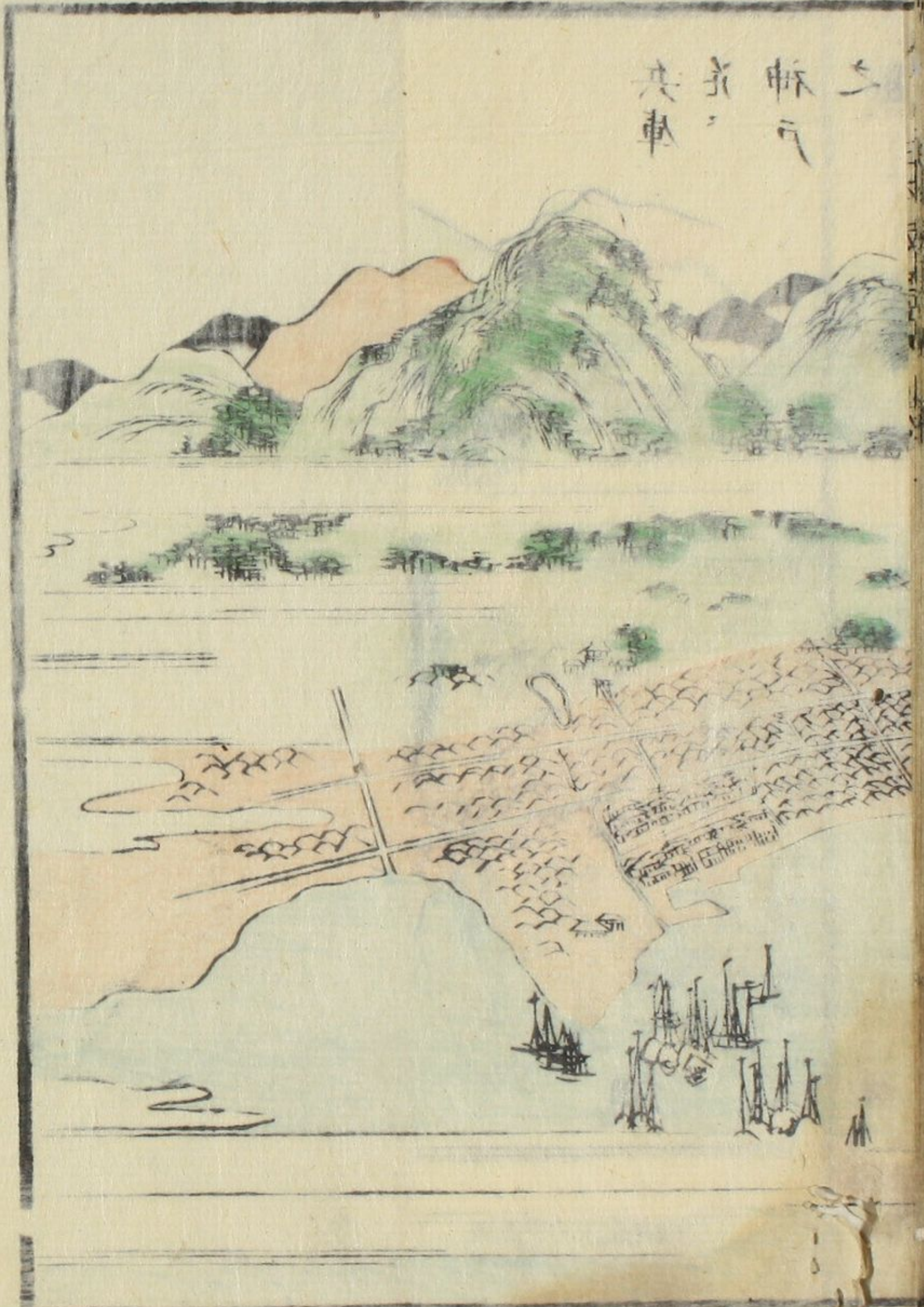


兵庫港之神之圖



兵庫成道一と持一玉の
人口を七十八万九千餘

二 縣 美 兵 車



四時乃寒暑も暖多く
此小橋まゝ一色所より浪
華江御より南の方濱
邊小橋く姫松乃中より
任吉社あり北の方小を
音小字く箕面江灘や

瓜生氏 日本國書

卷一

二十二

古くより。痼疾を愈すに
温泉とす。兵庫の西小
有馬山摩耶乃山小を
布引の流の水は音絶
えど。其外武庫山神峰
山礫馴相風湊磨の浦

又名物以品々を。天の美
禄乃伊丹酒礎かそき
津新石半切紙や有馬
亀天王寺甚草音池
園
炭左のりま。

成生氏 日本國書 卷一 三十三

瓜生
著
改正
日本
書
局
刊



瓜生
寅著

及西日本國
法之



明治七甲戌
七月再刻

知彼知己齋藏

